

角田 貴代美 氏の学位審査結果の要旨

主査：村川 知弘

副査：野村 昌作、蔦 幸治

放射線治療後の局所再発胸部腫瘍に対する根治線量を用いた再照射の安全性と効果を検討した。対象は2007年5月から2014年12月に静岡県立静岡がんセンターにおいて局所再発胸部腫瘍に対する再照射を受けた患者21名、年齢の中央値は72(範囲53-85)歳であった。初回照射と再照射の間隔の中央値は26.8ヶ月であった。再照射は20名(95%)でX線、1名(5%)で陽子線が使用されていた。再照射時の照射線量中央値は非小細胞肺癌患者で60 Gy₁₀、小細胞肺癌患者で50 Gy₁₀であった。CTCAE Grade 3以上の有害事象は急性期放射線性肺炎の1例のみであった。観察期間中央値は22.1ヶ月、局所無増悪期間、全生存期間中央値はそれぞれ12.9ヶ月、31.4ヶ月であった。再照射時に60 Gy₁₀以上の線量を投与した患者群で有意に局所無増悪期間が長かった(p=0.04)。本研究では局所制御率は同等で、生存期間が延長した。さらに単変量解析において60 Gy₁₀以上の線量で局所制御が向上した。本研究により、再照射の長期的安全性および線量増加により局所制御率の向上が示唆されたことは、局所再発胸部腫瘍に対する治療に新たな知見を加えるものであり、博士(医学)の学位に値すると判断した。